

学習シラバス（国語）科

科目名	単位数	学年・類型
現代の国語	2	第1学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>1 国語によって身に付けられるべき、「読む能力」「書く能力」「聞く能力」「話す能力」を伸ばします。</p> <p>2 実社会に必要な国語の知識や技能の習得を促し、国語を用いた思考力・判断力・表現力を培います。</p>
---------	---

2 学習計画等

	学習内容	学習のねらい
1 学期	物事の捉え方	筆者の提案する在り方などの意見について、文章構成をもとに把握し、自分に照らして考えを深めます。また、主題に至る論の構造を把握し、主張に説得力を持たせるための論の展開について考えます。
	人間と文化	日本と海外の文化を比較する中で、対比関係を用いながら、それぞれの文化に見られる特徴について論じる叙述の方法を把握します。また、ある文化圏での特定の要素を持つイメージを転換する論展開と、筆者が論拠としてあげる事例を把握します。
	言葉と情報	具体と抽象の関係を整理して論理構成を把握し、筆者が主張する内容について理解します。また、具体例を通して筆者が提起する現代社会の課題を理解し、社会を生きる者として問題意識を持ちます。
2 学期	科学と人間	科学と技術の違いについて対比的に整理し、現状における科学と技術の関係を理解します。また、本文のまとまりの関係性を捉えて内容を把握し、筆者が提示する観点についての考えをまとめます。
	社会と人間	具体的事例から一般論への展開と、対比の構造とを手掛かりとして、筆者の主張を理解します。また、筆者が持論を述べるための論の進め方を捉え、内容を把握する能力を養います。
	現代と社会	言葉が持つ複数の意味を文脈から把握し、グローバル社会における問題を多様な視点から考えます。また、筆者が挙げた具体例について、それを挙げた意図を理解したうえで、主張を把握します。
3 学期	生活の中の表現	改正前後の法律文や社会問題に関わる資料などを読み比べて必要な情報を読み取り、複数の文章を関連付けながら理解したことをまとめます。

3 評価の観点及び内容、評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・授業中の活動への取組 ・確認テスト ・ルーブリック評価
思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・課題等における論理的な解答の作成 ・発表の内容 ・ルーブリック評価
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に取り組む態度 ・ノート等における記述 ・授業中の発言 ・ルーブリック評価